

国本中央小学校地域協議会

社会科の「米作り」の授業とのタイアップ ～稲刈り体験～

- 学校から500mほどの、地域協議会副会長が所有する田んぼで、地域協議会の会長や副会長、保護者、地域の方の協力のもと、稲刈り体験が開催されました。
- 5月に全学年で田植えを行い、育った稲を3・4年生の部と5・6年生の部に分かれ、副会長から稲刈りの手順や注意点を教わり、稲刈り体験を行いました。
- 子ども達が刈り取った稲を、校長や副校長、会長、副会長を含む大人がコンバインで脱穀しました。また、当日は、学校と田んぼの往復中の安全確保や、稲刈りの補助などに保護者が協力しました。学校・家庭・地域が連携協力した取組により、子ども達は収穫の喜びを知り、勤労の尊さや奉仕の精神を充実させ、自分から進んで取り組んでいこうとする態度を養う貴重な体験活動を行うことができました。



副会長による説明



稲を刈っている様子



脱穀は大人が担当



稲刈りをした児童



地域の大人が協力

【学校の声】

地域の特性でもある、学校を囲む多くの自然を学校教育活動に取り入れています。

学校に協力してくれる地域の方が多く、地域の教育力が高い地域だと思います。地域の方の協力によって教育活動を滞りなく実施できています。

田植えから稲刈りまでの体験をとおして、5年生の社会科の米作りの授業が深まるほか、収穫した米を給食に使用、赤飯を作って文化祭で全校児童に提供するなど、各種活動が充実しています。

【地域協議会の声】

この地域は、昔はほとんどが農家でしたが、最近は農家がとても少なくなってきており、最近の多くの子ども達にとっては、農業が縁遠いものとなっています。

また、地産地消の考えに基づき、地場農産物への愛着心や安心感を深めることが重要と考え、子ども達に稲刈りを体験してほしいと考えました。

この活動をとおして、子ども達とふれあうことで、私達もパワーをもらっています。

【いいね!】

- 地域の特色である豊かな自然を活かし、20年以上継続され、地域へ定着している取組である。
- 学校から田んぼまでの移動を保護者が見守るなど、PTAと連携し、子ども達が安全に活動できる環境が確保されていた。
- 稲刈り体験だけに留まらずに、収穫した米を学校給食や文化祭にも活用しているなど、1つの取組が複数の取組に繋がっている。

